

藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画の策定について
藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画を次のとおり定める。

2021年（令和3年）7月16日提出

藤沢市教育委員会

教育長 岩本 将宏

藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画

別紙のとおり

提案理由

この議案を提出したのは、本市の市立学校施設の再整備にかかる実施計画を策定する必要による。

参 考

藤沢市教育委員会教育長に対する事務の委任に関する規則 抜粋

（委任事項）

第2条 教育委員会は次に掲げる事項を除き、その権限に属する教育事務を教育長に委任する。ただし、教育長において特に重要若しくは異例に属すると認めるとき又は委員会において要求があったときは、その限りではない。

（1）教育行政の運営に関する基本的な方針を定めること。

藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画（案）

【令和3年度～令和7年度】



2021年（令和3年）7月

藤沢市教育委員会

目 次

1 学校施設再整備第2期実施計画策定の目的及び経過

- (1) 計画策定の目的 1
- (2) 第1期実施計画の経過（平成28年度～令和2年度）
. 1

2 第2期実施計画（令和3年度～令和7年度）

- (1) 老朽施設の解消 4
 - ア 事業優先度の考え方
 - イ 整備手法の考え方
 - ウ 対象校一覧
 - エ 事業実施にあたっての留意事項
 - オ 対象校ごとの個別計画
 - ① 鶴沼中学校再整備 7
 - ② 辻堂小学校再整備 10
 - ③ 鶴洋小学校再整備 13
 - ④ 片瀬小学校再整備 16
 - ⑤ 明治中学校再整備 19
 - ⑥ 藤沢小学校再整備 21
 - ⑦ 明治小学校再整備 23
 - ⑧ 長後小学校再整備 25
 - ⑨ 鶴沼小学校再整備 27
 - ⑩ 大道小学校再整備 29
 - カ その他の学校の再整備に向けて
- (2) 既存施設の適正な管理，運営にかかる整備計画 31
- (3) 学校の適正規模・適正配置の検討 33

1 学校施設再整備第2期実施計画策定の目的及び経過

(1) 計画策定の目的

藤沢市教育委員会では、「藤沢市公共施設再整備基本方針」に基づき、学校施設の老朽化の解消、維持保全、環境整備等を計画的に実施するため、学校施設の分野別計画として、平成26年度に「藤沢市立学校施設再整備基本方針」を策定し、学校施設整備の基本的な考え方を整理しました。

この方針では、財源を含めた実施計画を5年ごとに区切り、事業を実施していくこととし、平成27年度に、「藤沢市立学校施設再整備第1期実施計画」(以下「第1期実施計画」という。)を策定し、対象校の整備手法等を検討し、再整備事業や施設の改修事業等を進めてまいりました。

令和3年3月には、第1期実施計画の期間終了に伴い、国の方針に基づき、中長期的な視点に基づく長寿命化に向けた整備方針について新たに追加する等の見直しを行い、「藤沢市立学校施設再整備基本方針～学校施設の長寿命化に向けて～」(以下「基本方針」という。)を改定しました。

この基本方針に基づき、学校施設の安全性を最優先に、老朽解消の対策、また、既存施設の適正な管理、運営にかかる各種改修工事の計画的な実施を目的に、財源を含めた実施計画として、「藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画」(以下「第2期実施計画」という。)を策定するものです。

なお、第2期実施計画に基づく事業実施にあたっては、「藤沢市公共施設再整備プラン」との調整を行い、整合性を図る中で進めていきます。

(2) 第1期実施計画の経過(平成28年度～令和2年度)

第1期実施計画では、耐力度調査を実施した小学校4校、中学校2校について、調査結果及び各学校の個別の状況をもとに、整備手法及び優先順位等を検討しました。

第1期実施計画の取組と成果として、六会中学校屋内運動場再整備事業は、令和2年1月に新屋内運動場が完成し、その後、旧屋内運動場の跡地をサブグラウンド等に整備し、令和3年3月に事業が完了しました。

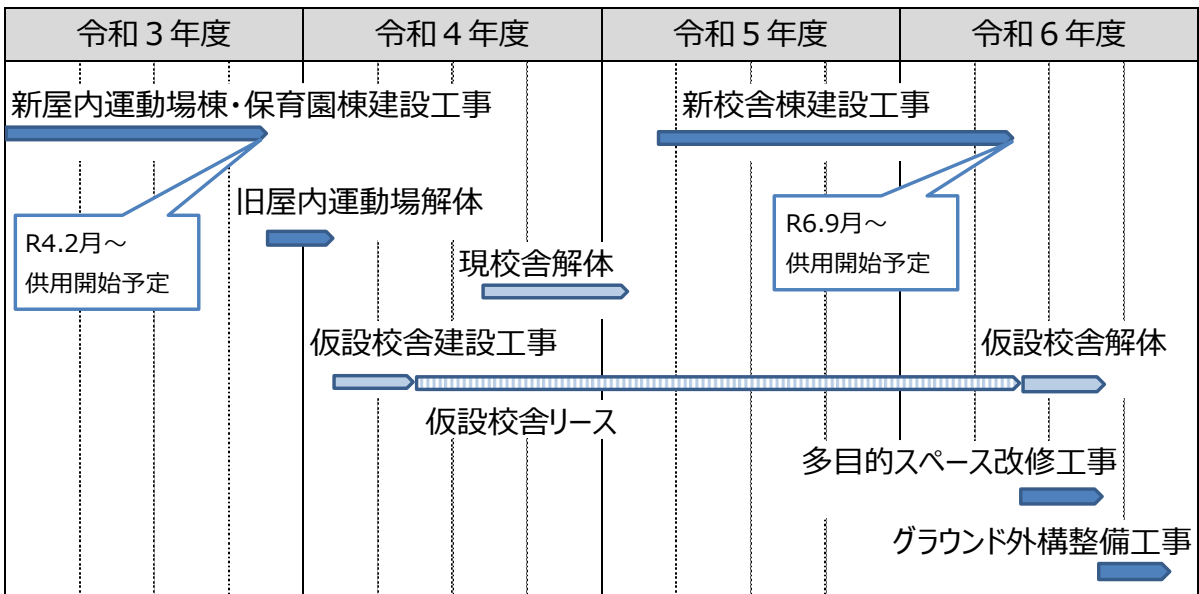
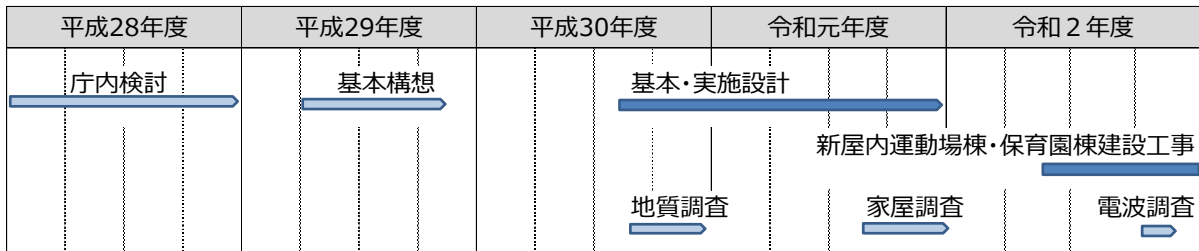
また、鵜南小学校等再整備事業については、浜見保育園及び児童クラブとの複合施設として全面改築を計画し、令和2年3月、設計業務を完了し、同年9月、第1期工事として、屋内運動場棟及び保育園棟の建設工事に着手し、令和4年2月の供用開始に向け、工事を実施しています。その後、令和5年度から令和6年度に、第2期工事として校舎棟の建設工事、第3期工事として外構工事等を実施し、令和6年度中の事業完了を予定しています。

対象校	実施状況	事業期間
六会中学校	事業完了	平成29年度～令和2年度
鵜南小学校	実施中	平成29年度～令和6年度予定

表1-1 第1期実施計画における実施状況

<鵜南小学校等再整備事業>

○実施状況及び今後のスケジュール予定



○建物概要

施設名	屋内運動場棟・保育園棟	校舎棟
階数	地上4階建て	地上4階建て
延床面積	(屋内運動場) 1867.81㎡ (保育園) 2521.65㎡ (駐車場599㎡含む)	8532.69㎡ (給食調理室513.27㎡含む)
諸室	(屋内運動場) ・屋内運動場アリーナ, ステージ, 開放用会議室, PTA会議室, 交流スペース, 機械室等 (保育園) ・駐車場, 管理諸室, 保育室6, 調理室, 屋上園庭, 児童クラブ生活室2等	管理諸室, 特別教室, 普通教室18, 特別支援学級3, 給食調理室, 屋上プール, 防災備蓄倉庫等

○想定事業費

設計費	167,600千円
建設工事費	4,233,000千円
解体工事費	271,000千円
外構工事費	227,000千円
工事監理委託	148,000千円
仮設校舎費用	425,000千円
合計	5,471,600千円

なお、第1期実施計画における対象校のうち、鵜沼中学校他3校については、「藤沢市公共施設再整備プラン」において、検討事業の位置づけとなり、第1期実施計画の期間内では事業未着手となりました。

これらの学校については、再整備の優先順位が高いことから、基本方針における長寿命化整備方針では、分類1「第1期実施計画で計上済みの学校」に位置づけており、引き続き第2期実施計画に移行することとします。

対象校	実施状況	事業期間
鵜沼中学校	未着手	第2期実施計画に移行
辻堂小学校		
鵜洋小学校		
片瀬小学校		

表1-2 第1期実施計画における未着手の学校

2 第2期実施計画（令和3年度～令和7年度）

（1）老朽施設の解消

基本方針における長寿命化整備方針，分類2「使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校」に位置づけた11校のうち，再整備の優先順位が高い学校として，新たに小学校5校，中学校1校の計6校を対象校として追加し，第1期実施計画で未着手となった4校と合わせ，現状と課題を整理し，整備手法や事業費，スケジュール等を計画します。

ア 事業優先度の考え方

対象校における事業優先度の検討にあたっては，基本方針における長寿命化整備方針の分類，既存施設の状況，建物の使用年数や面積，劣化状況等の建物情報，児童生徒数の推移の個別状況から，総合的に比較することで，優先順位を決定しました。

- ①長寿命化整備方針の分類
- ②既存施設の状況
- ③建物情報
- ④児童生徒数の推移

個別状況等から総合的に比較し，優先順位を決定

イ 整備手法の考え方

対象校における整備手法の検討にあたっては，基本方針における整備手法フローに基づき，改築の区分に整理した建物以外は，長寿命化改修もしくは中規模改修の手法とします。

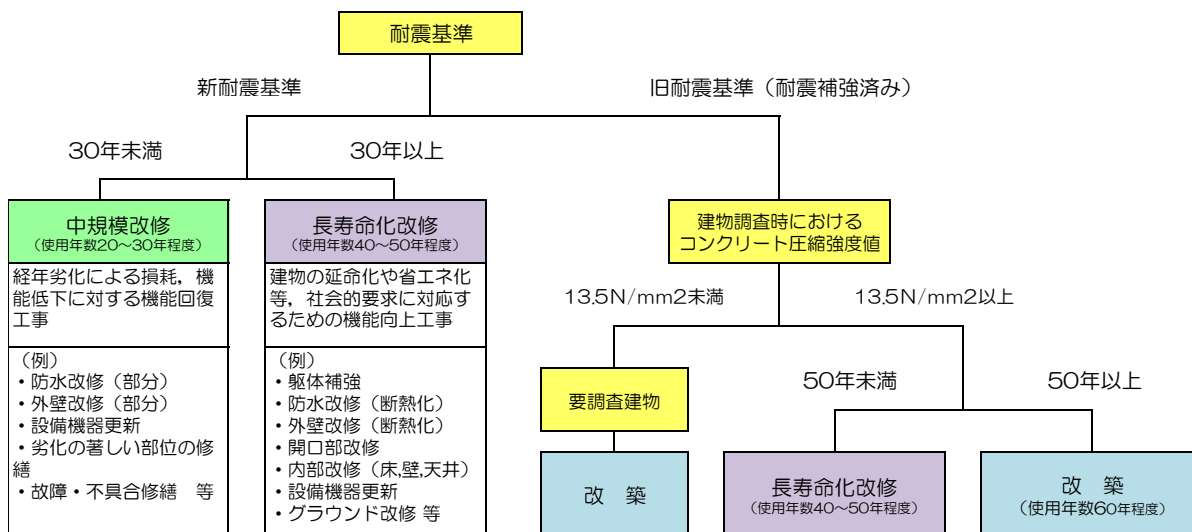


図2-1 整備手法フロー

ウ 対象校一覧

令和3年4月現在

分類	優先度	学校名	建物	面積 (㎡)	建築年度	建物の 使用年数	劣化 評価点
分類1：第1期実施計画で計上済みの学校							
1	鵜沼中学校	校舎1		5,005	昭和44年	52	82
		校舎2		1,424	昭和55年	41	65
		屋内運動場		1,201	平成4年	29	42
		武道場		264	平成4年	29	40
2	辻堂小学校	屋内運動場		645	昭和40年	56	80
		校舎1		1,503	昭和43年	53	77
		校舎2		373	昭和46年	50	74
		校舎3		3,858	昭和60年	36	54
3	鵜洋小学校	校舎1		1,135	昭和34年	62	91
		屋内運動場		632	昭和39年	57	82
		校舎2		2,517	昭和41年	55	85
		校舎3		1,864	昭和62年	34	53
4	片瀬小学校	校舎1		830	昭和38年	58	82
		屋内運動場		626	昭和43年	53	78
		校舎2		2,027	昭和47年	49	69
		校舎3		1,264	昭和54年	42	62
		校舎4		910	平成2年	31	44
分類2：使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校 (対象11校のうち、整備の優先順位が高い6校)							
5	明治中学校	校舎1		5,258	昭和44年	52	82
		屋内運動場		1,474	平成10年	23	36
		武道場		300	平成10年	23	34
6	藤沢小学校	校舎1		2,671	昭和43年	53	83
		校舎2		1,704	昭和48年	48	78
		屋内運動場		1,255	平成2年	31	44
7	明治小学校	校舎1		1,864	昭和42年	54	83
		校舎2		2,357	昭和50年	46	75
		校舎3		1,529	昭和53年	43	67
		屋内運動場		1,038	昭和62年	34	45
8	長後小学校	校舎1		3,785	昭和41年	55	79
		屋内運動場		646	昭和43年	53	70
		校舎2		1,894	昭和49年	47	67
9	鵜沼小学校	屋内運動場		621	昭和40年	56	71
		校舎1		1,663	昭和42年	54	84
		校舎2		3,809	昭和58年	38	57
10	大道小学校	屋内運動場		632	昭和41年	55	81
		校舎1		1,385	昭和42年	54	84
		校舎2		1,536	昭和46年	50	80
		校舎3		2,448	平成6年	27	40

表2-1 第2期実施計画における再整備対象校

エ 事業実施にあたっての留意事項

< 既存仮設校舎の解消 >

児童生徒数の増加に伴い設置された既存の仮設校舎については，再整備の実施に当たり，解消を図ります。

< 建物構造体の調査の実施 >

建物構造体の詳細な調査を行ったうえで，経済性や教育環境上の観点等を十分に考慮し，個別の建物ごとに長寿命化改修の可否を総合的に判断します。

< 配置計画等の検討 >

配置計画等の各学校における個別の検討事項については，早期段階から学校関係者や地域住民へ情報提供を行い，意見，提案を受けながら事業を進めていくこととします。

< 将来を見据えた施設規模の検討 >

今後の児童生徒数は，全体的に減少傾向が見込まれるため，将来の学級規模を想定するとともに，将来的な施設利用の観点も踏まえ，過剰とならないよう施設規模の検討を行います。

< 計画段階における想定事業費及びスケジュールの検討 >

想定事業費は，現段階における概算金額であり，各事業における詳細の事業費及び事業スケジュールは，再整備事業実施時における社会情勢や本市の財政状況を踏まえ，設計業務の中で詰めていくこととします。

※想定事業費は，各校の児童生徒推計から，学校規模に応じた想定整備面積を算定し，改築や長寿命化改修，中規模改修といった建物の整備手法ごとに，一定の単価を乗じて算出しています。

才 対象校ごとの個別計画

① 鶴沼中学校再整備

事業優先度 1

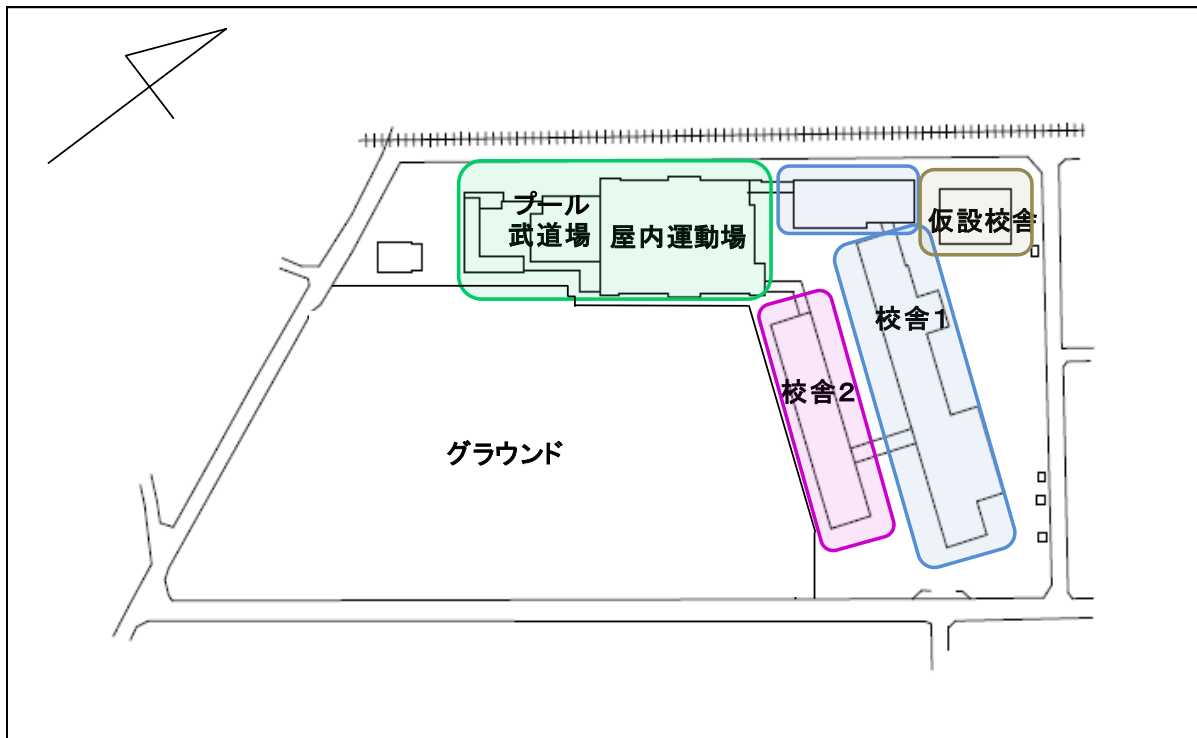
○長寿命化整備方針の分類

分類 1	第 1 期実施計画で計上済みの学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	21,327㎡	
地区	鶴沼地区	
地域	第一種低層住居専用地域	
立地及び周辺情報	低層住宅内に立地。四方接道しているが道幅は狭い。北面は遊歩道を挟み小田急江ノ島線が通る。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。武道場，開放用施設，プール及び部室を併設。
	プール	平成 5 年 3 月建設。武道場屋上部に配置，アルミ造。
	仮設校舎	平成 2 5 年 3 月，4 教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎 1	・建物の使用年数は50年を経過しており、全体的に劣化が見られる。 ・耐力調査(H27)では、コンクリート強度の低下、中性化の進行や鉄筋の部分的腐食及び多数のクラックが確認されている。
校舎 2	・建物の使用年数は40年程度で、設備関係に劣化が見られる。
屋内運動場	・建物の使用年数は30年程度。
武道場	

○生徒数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	生徒数(特学を含む)	普通 学級数	特学	学校規模	面積		
					校舎等	屋内運動場	武道場
	834人	22	2	適正規模	6,504㎡	1,201㎡	264㎡

令和9年度 推計	生徒数(特学を含む)	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積		
					校舎等	屋内運動場	武道場
	945人	25	(2)	大規模	8,009㎡ (1,505㎡)	1,201㎡ (-)	264㎡ (-)

※想定整備面積、下段〔 〕内、増減面積
特学・・・特別支援学級

参考：令和37年度想定

生徒数	学級数	学校規模
682人	18	適正規模

生徒数は、令和9年度にピークを迎え、一時的には大規模となりますが、その後は、減少傾向となる見込みです。

○整備手法

想定学級数：25学級

想定整備面積：校舎 約 8,000 ㎡、屋内運動場（武道場含む）1,465 ㎡

建物名	構造階	建築年月	既存面積 (㎡)	整備手法 (案)	整備後面積 (㎡)
校舎 1	RC4	昭和45年3月	3,791	改築	6,585
	RC4	昭和45年3月	1,214		
校舎 2	RC4	昭和56年3月	1,424	長寿命化改修	1,424
屋内運動場	RC2	平成5年3月	1,201	中規模改修	1,201
武道場	RC2	平成5年3月	264		264

校舎 1 は、建築後 50 年が経過し、老朽化が進んでいるため、改築による再整備を計画します。

校舎 2 は、建築後 40 年程度で、比較的築年数が浅いため、長寿命化改修を実施し、機能向上を図ります。

屋内運動場及び武道場は、建築後 30 年程度で築年数が浅いため、中規模改修を実施し、各種設備機器等の機能回復を図ります。

○事業スケジュール及び想定事業費

(単位：百万円)

事業区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	想定事業費
学校及び庁内検討								-
基本実施設計								200
仮設校舎賃貸借			契約	建設	借用		解体	795
既存仮設校舎解体				-				23
既存校舎解体						供用開始予定		271
建設工事 (長寿命化改修等を含む)							事業完了予定	3,413
グラウンド外構整備								160
想定事業費	0	92	99	531	2,373	1,607	160	4,862
国庫補助金	0	0	0	0	365	244	18	627
地方債	0	43	52	203	1,251	834	99	2,482
一般財源	0	49	47	328	757	529	43	1,753

※上記の他、移転費用及び産業廃棄物処分、現況図作成等の費用を想定しています。

※実施年度については、藤沢市公共施設再整備プランとの整合性を図る中で、確定していきます。

②辻堂小学校再整備

事業優先度 2

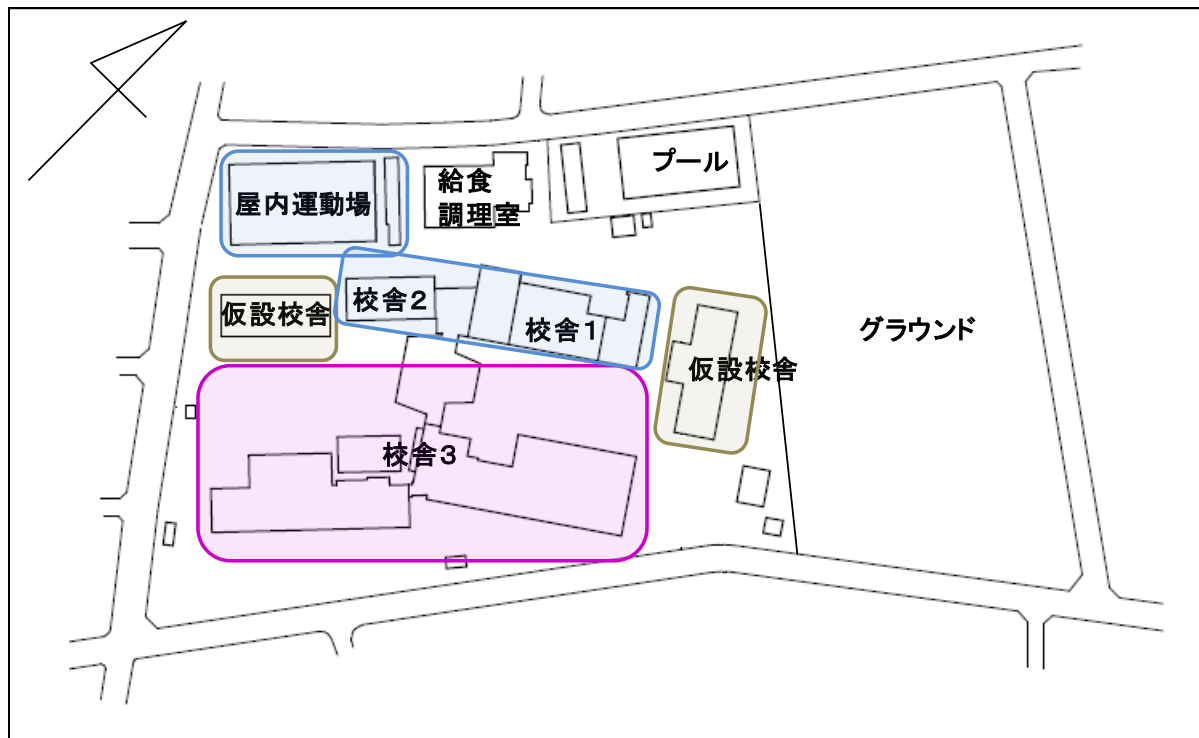
○長寿命化整備方針の分類

分類 1	第 1 期実施計画で計上済みの学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	19,882㎡	
地区	辻堂地区	
地域	第一種低層住居専用地域	
立地及び周辺情報	低層住宅内に立地。四方接道しているが道幅は狭い。グラウンドの一部は津波浸水予測エリアとなっている。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和 6 2 年 3 月建設。校地北側に配置，アルミ造。
	給食調理室	昭和 6 1 年 3 月建設。
	仮設校舎	平成 1 6 年 3 月に 5 教室，平成 2 5 年 3 月に 4 教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
屋内運動場	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部及び設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H27)では、コンクリート強度は保たれているものの構造体のクラックが多く確認されており、不同沈下の発生が確認されている。
校舎1	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部及び設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H27)では、コンクリート強度の低下、鉄筋の腐食や不同沈下の発生が確認されている。
校舎2	
校舎3	・建物の使用年数は40年程度で、外壁に劣化が見られる。

○児童数の推移，想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	1,255人	35	-	過大規模	6,030㎡	645㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	1,154人	36	(2)	過大規模	9,355㎡ 〔 3,325㎡〕	1,204㎡ 〔 559㎡〕

※想定整備面積，下段〔〕内，増減面積
特学・・・特別支援学級

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
1,123人	36	過大規模

過大規模の状況は，当面の間，継続する見込みです。

○整備手法

想定学級数：36学級

想定整備面積：校舎 約 9,400 ㎡，屋内運動場 約 1,200 ㎡

建物名	構造階	建築年月	既存面積 (㎡)	整備手法 (案)	整備後面積 (㎡)
屋内運動場	RC2	昭和40年12月	645	改築	1,204
校舎1	RC3	昭和43年11月	840	改築	5,497
	RC3	昭和52年2月	345		
	RC3	昭和52年2月	318		
校舎2	RC2	昭和47年3月	373		
校舎3	RC3	昭和61年3月	3,858	長寿命化改修	3,858

校舎1，2及び屋内運動場は，建築後50年が経過し，老朽化が進んでいるため，改築による再整備を計画します。

校舎3は，建築後40年程度で，比較的築年数が浅いため，長寿命化改修を実施し，機能向上を図ります。

○事業スケジュール及び想定事業費

(単位：百万円)

事業区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	想定事業費
学校及び庁内検討								-
基本実施設計								224
仮設校舎賃貸借			契約	建設	借用		解体	1,208
既存仮設校舎解体				-				51
既存校舎等解体								102
建設工事 (長寿命化改修等を含む)								4,035
グラウンド外構整備								160
想定事業費	0	103	112	543	2,902	1,960	160	5,780
国庫補助金	0	0	0	0	441	294	18	753
地方債	0	49	59	102	1,458	972	99	2,739
一般財源	0	54	53	441	1,003	694	43	2,288

※上記の他、移転費用及び産業廃棄物処分、現況図作成等の費用を想定しています。

※実施年度については、藤沢市公共施設再整備プランとの整合性を図る中で、確定していきます。

③ 鵜洋小学校再整備

事業優先度 3

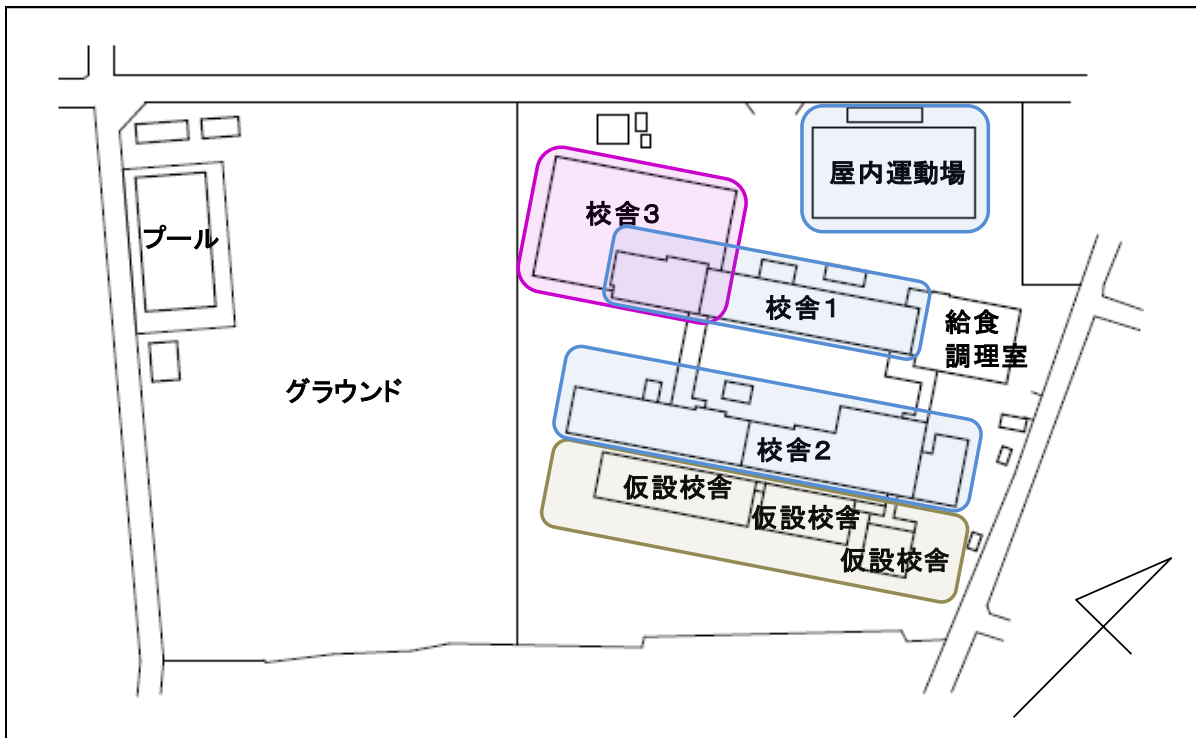
○ 長寿命化整備方針の分類

分類 1	第 1 期実施計画で計上済みの学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○ 既存施設の状況

校地面積	17,420㎡	
地区	鵜沼地区	
地域	第一種低層住居専用地域 ・ 第三号鵜沼風致地区	
立地及び周辺情報	低層住宅内に立地。三方は接道しているが道幅は狭い。	
施設特記事項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和 4 7 年 7 月建設。グラウンド西角に配置，鋼板造。
	給食調理室	昭和 6 3 年 3 月建設。
	仮設校舎	平成 1 4 年 3 月に 2 教室，平成 2 1 年 1 0 月に 2 教室，平成 2 5 年 3 月に 4 教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎 1	・建物の使用年数は校舎 1 は 60 年、校舎 2 は 50 年を経過しており、外壁、内部、設備関係に劣化が見られる。
校舎 2	・耐力度調査(H27)では、コンクリート強度の低下、中性化の進行、鉄筋の腐食、構造体のクラックが確認されている。
屋内運動場	・建物の使用年数は 50 年を経過しており、外壁、内部に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H27)では、構造体に多くのクラックや不同沈下の発生が確認されている。
校舎 3	・建物の使用年数は 40 年程度で、外壁、屋根・屋上に劣化が見られる。

○児童数の推移， 想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	1,213人	35	-	過大規模	5,822㎡	632㎡

令和8年度 推計	児童数 (特学を含む)	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	1,051人	33	(2)	過大規模	9,102㎡ (3,280㎡)	1,204㎡ (572㎡)

※想定整備面積，下段〔 〕内，増減面積
特学・・・特別支援学級

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
809人	24	適正規模

過大規模の状況は、しばらくの間、継続する見込みですが、令和6年度にピークを迎え、その後、減少傾向となる見込みです。

○整備手法

想定学級数：33学級

想定整備面積：校舎 約 9,100 ㎡，屋内運動場 約 1,200 ㎡

建物名	構造階	建築年月	既存面積 (㎡)	整備手法 (案)	整備後面積 (㎡)
校舎 1	RC2	昭和35年3月	825	改築	7,238
	RC2	昭和39年3月	310		
校舎 2	RC3	昭和42年3月	1,017		
	RC3	昭和53年3月	1,308		
	RC2	昭和55年3月	192		
屋内運動場	RC2	昭和40年3月	632	改築	1,204
校舎 3	RC3	昭和63年3月	1,864	長寿命化改修	1,864

校舎 1（普通教室棟）及び校舎 2，屋内運動場は、建築後 50 年が経過

し、老朽化が進んでいるため、改築による再整備を計画します。

校舎3（管理諸室棟）は、建築後40年程度で、比較的築年数が浅いため、長寿命化改修を実施し、機能向上を図ります。

○事業スケジュール及び想定事業費

(単位：百万円)

事業区分	実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	想定事業費
学校及び庁内検討									-
基本実施設計									211
仮設校舎賃貸借				契約	建設	借用		解体	954
既存仮設校舎解体					-				46
既存校舎等解体							供用開始予定		198
建設工事 (長寿命化改修等を含む)								事業完了予定	4,071
グラウンド外構整備									160
想定事業費		0	97	105	558	2,817	1,903	160	5,640
国庫補助金		0	0	0	0	447	298	18	763
地方債		0	46	55	172	1,471	981	99	2,824
一般財源		0	51	50	386	899	624	43	2,053

※上記の他、移転費用及び産業廃棄物処分、現況図作成等の費用を想定しています。

※実施年度については、藤沢市公共施設再整備プランとの整合性を図る中で、確定していきます。

④片瀬小学校再整備

事業優先度 4

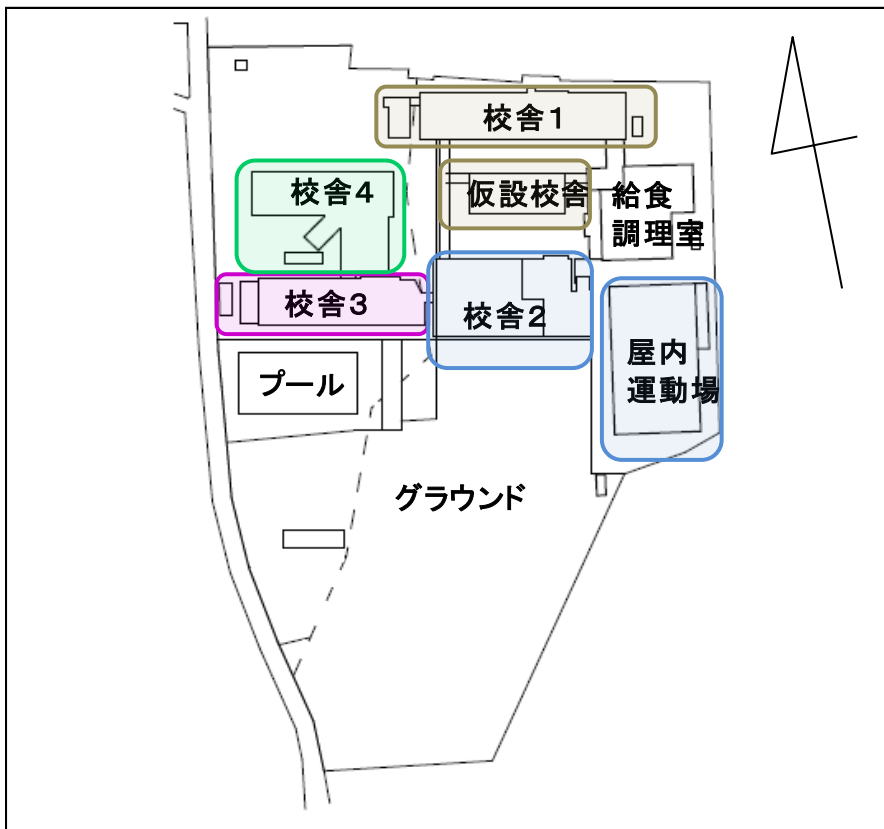
○長寿命化整備方針の分類

分類 1	第 1 期実施計画で計上済みの学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	12,487㎡（うち8,786㎡は民有地を借用し使用）	
地区	片瀬地区	
地域	第一種低層住居専用地域	
立地及び周辺情報	低層住宅内に立地。接道は西・東側のみで道幅は狭い。東側の斜面は土砂災害警戒区域に指定。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和 4 6 年 7 月建設。校地西側に配置，鋼板造。
	給食調理室	昭和 5 9 年 3 月建設。
	仮設校舎	平成 1 7 年 3 月に 3 教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎 1	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H27)では、コンクリート強度の低下、中性化の進行、鉄筋の腐食や多数のクラックが確認されている。
校舎 2	・建物の使用年数は50年程度で、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・平成25年度に外壁改修工事を実施。 ・耐力度調査(H27)では、コンクリート強度の低下や鉄筋の部分的な点食が確認されている。
屋内運動場	・建物の使用年数は50年を経過しており、外壁、内部に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H27)では、鉄筋の部分的な点食や壁に多くのクラックが確認されている。
校舎 3	・建物の使用年数は40年程度で、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・平成25年度に外壁改修工事を実施。
校舎 4	・建物の使用年数は30年程度。

○児童数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	753人	23	3	適正規模	5,183㎡	626㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	564人	20	(2)	適正規模	6,496㎡ 〔 1,313㎡〕	1,054㎡ 〔 428㎡〕

※想定整備面積、下段〔〕内、増減面積
特学・・・特別支援学級

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
430人	18	適正規模

児童数は、令和3年度をピークに、その後、減少傾向となる見込みです。

○整備手法

想定学級数：20学級

想定整備面積：校舎 約 6,500 ㎡，屋内運動場 約 1,100 ㎡

建物名	構造階	建築年月	既存面積 (㎡)	整備手法 (案)	整備後面積 (㎡)
校舎 1	RC2	昭和39年3月	830	解体	-
校舎 2	RC4	昭和48年3月	1,589	改築	4,322
	RC4	昭和49年3月	438		
屋内運動場	RC2	昭和44年2月	626	改築	1,054
校舎 3	RC4	昭和55年3月	1,264	長寿命化改修	1,264
校舎 4	RC2	平成3年3月	910	中規模改修	910

校舎1，校舎2及び屋内運動場は，建築後50年が経過し，老朽化が進んでいるため，改築による再整備を計画します。

校舎3は，建築後40年程度で，比較的築年数が浅いため，長寿命化改修を実施し，機能向上を図ります。

校舎4（特別教室棟）は，建築後30年程度で築年数が浅いため，中規模改修を実施し，各種設備機器等の機能回復を図ります。

○事業スケジュール及び想定事業費

(単位：百万円)

事業区分	実施年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	想定事業費
学校及び庁内検討									-
基本実施設計									160
仮設校舎賃貸借				契約	建設	借用		解体	572
既存仮設校舎解体工事					-				17
既存校舎等解体								供用開始予定	155
建設工事 (長寿命化改修等を含む)								事業完了予定	2,921
グラウンド改修工事									160
想定事業費		0	74	77	377	1,963	1,334	160	3,985
国庫補助金		0	0	0	0	313	209	18	540
地方債		0	33	40	140	1,054	702	99	2,068
一般財源		0	41	37	237	596	423	43	1,377

※上記の他，移転費用及び産業廃棄物処分，現況図作成等の費用を想定しています。

※実施年度については，藤沢市公共施設再整備プランとの整合性を図る中で，確定していきます。

⑤明治中学校再整備

事業優先度 5

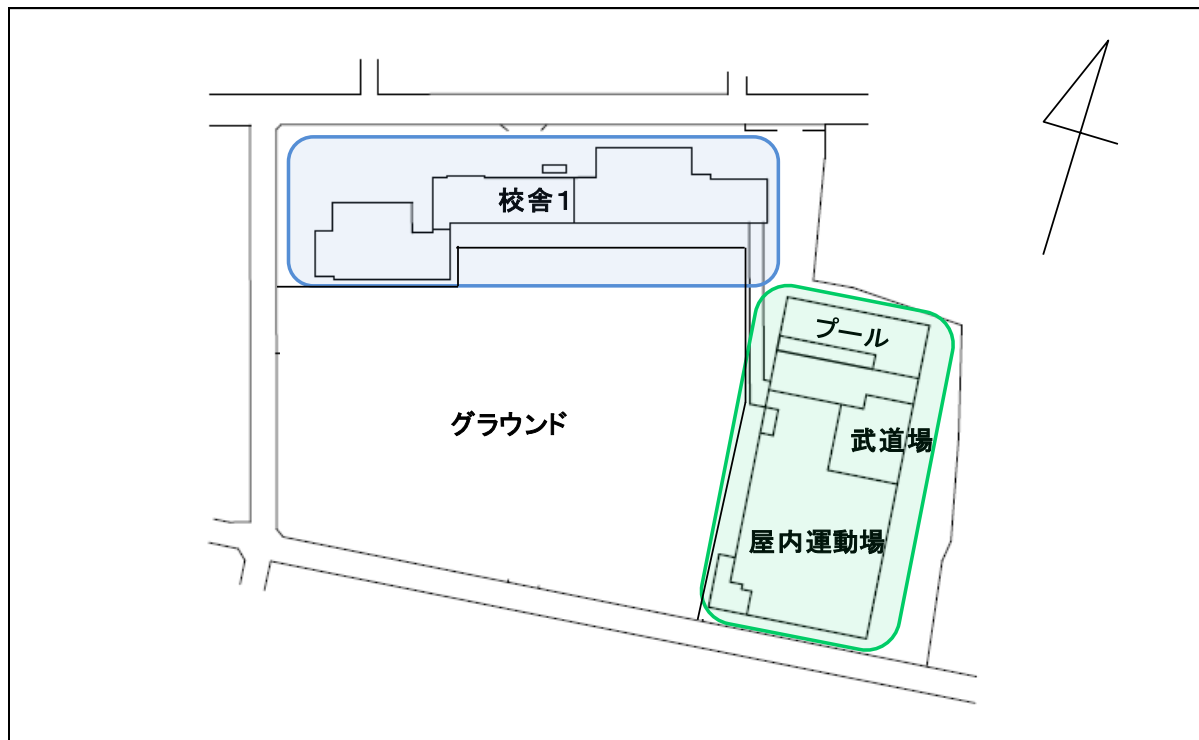
○長寿命化整備方針の分類

分類2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	16,541㎡	
地区	明治地区	
地域	第一種低層住居専用地域・第一種住居地域	
立地及び周辺情報	北側は中高層建築，他は低層住宅地。接道は東側を除く三方で北側を除き道幅は狭い。	
施設 特記 事項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。武道場，開放用施設，プール，部室を併設。
	プール	平成10年9月建設。武道場屋上部に配置，FRP造。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎1	・建物の使用年数は50年を経過しており、全体的に劣化が見られる。 ・耐力度調査（H28）では、コンクリート強度の低下や鉄筋の部分的な点食、多数のクラックが確認されている。
屋内運動場	・建物の使用年数は30年未満。
武道場	

○生徒数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	生徒数	普通 学級数	特学	学校規模	面積		
					校舎等	屋内運動場	武道場
	609人	17	-	適正規模	5,368㎡	1,474㎡	300㎡

令和11年度 推計	生徒数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積		
					校舎等	屋内運動場	武道場
	814人	22	(2)	適正規模	7,757㎡ { 2,389㎡ }	1,474㎡ { - }	300㎡ { - }

※想定整備面積、下段〔〕内、増減面積
特学…特別支援学級

参考：令和37年度想定

生徒数	学級数	学校規模
754人	21	適正規模

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
校舎1	RC4	昭和45年3月	2,329	改築	7,757
	RC4	昭和46年3月	1,299		
	RC4	昭和47年3月	1,630		
屋内運動場	RC2	平成10年9月	1,474	中規模改修	1,474
武道場	RC2	平成10年9月	300		300

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・供用開始予定：令和12年12月
- ・総事業費見込み：4,914,000千円

⑥藤沢小学校再整備

事業優先度 6

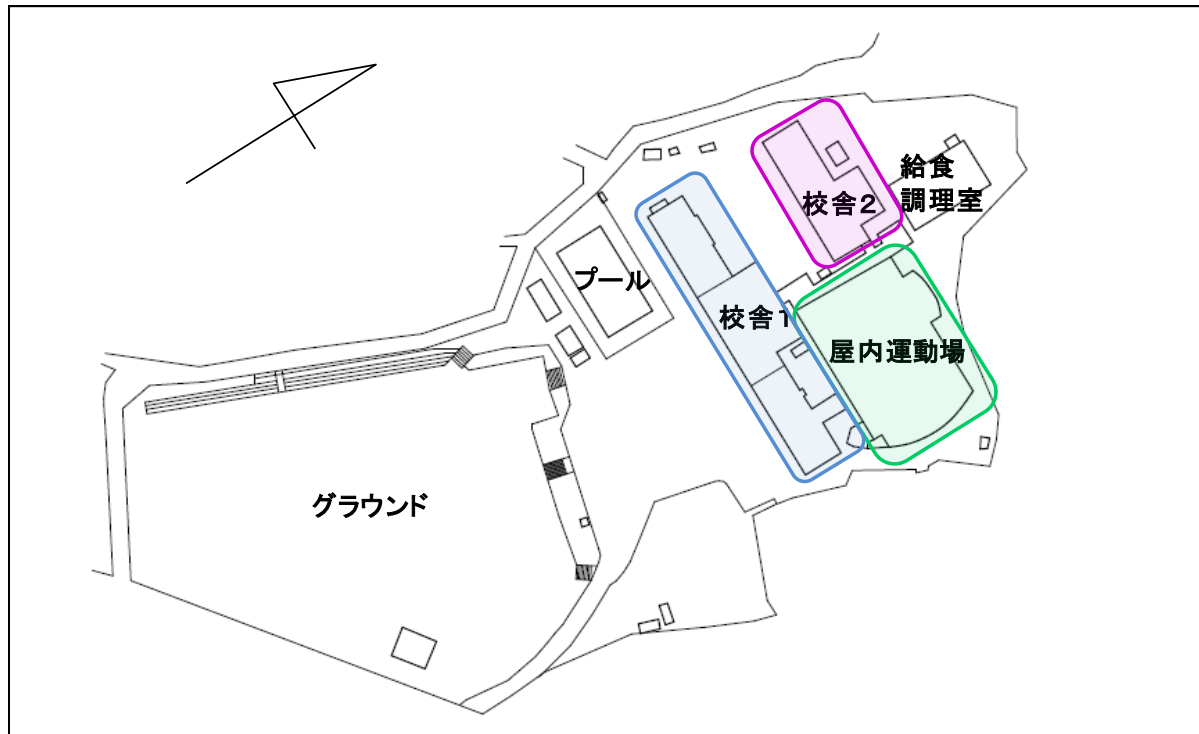
○長寿命化整備方針の分類

分類 2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	20,087㎡	
地区	藤沢地区	
地域	第一種住居地域 ・ 近隣商業地域	
立地及び周辺情報	南側は県道に接し、他は低層住宅及び墓地。接道は三方で県道を除き道幅狭い。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。開放用施設を併設。
	プール	昭和47年7月建設。校舎南側に配置。
	給食調理室	昭和53年3月建設。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎1	・建物の使用年数は50年を経過しており、全体的に劣化が見られる。 ・耐震診断(H11)では、コンクリート強度の低下、不同沈下の発生が確認されている。
校舎2	・建物の使用年数は50年程度で、全体的に劣化が見られる。 ・耐震診断調査(H11)では、コンクリート強度の低下が確認されている。
屋内運動場	・建物の使用年数は30年程度。

○児童数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	582人	18	-	適正規模	4,467㎡	1,255㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	566人	19	(2)	適正規模	6,417㎡ 〔1,950㎡〕	1,255㎡ 〔 - 〕

※想定整備面積、下段〔〕内、増減面積

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
544人	18	適正規模

特学・・・特別支援学級

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
校舎1	RC3	昭和44年3月	672	改築	4,713
	RC3	昭和46年3月	1,164		
	RC3	昭和47年3月	835		
校舎2	RC4	昭和49年3月	1,704	長寿命化改修	1,704
屋内運動場	RC2	平成3年3月	1,255	中規模改修	1,255

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・供用開始予定 : 令和13年12月
- ・総事業費見込み : 3,697,000千円

⑦明治小学校再整備

事業優先度 7

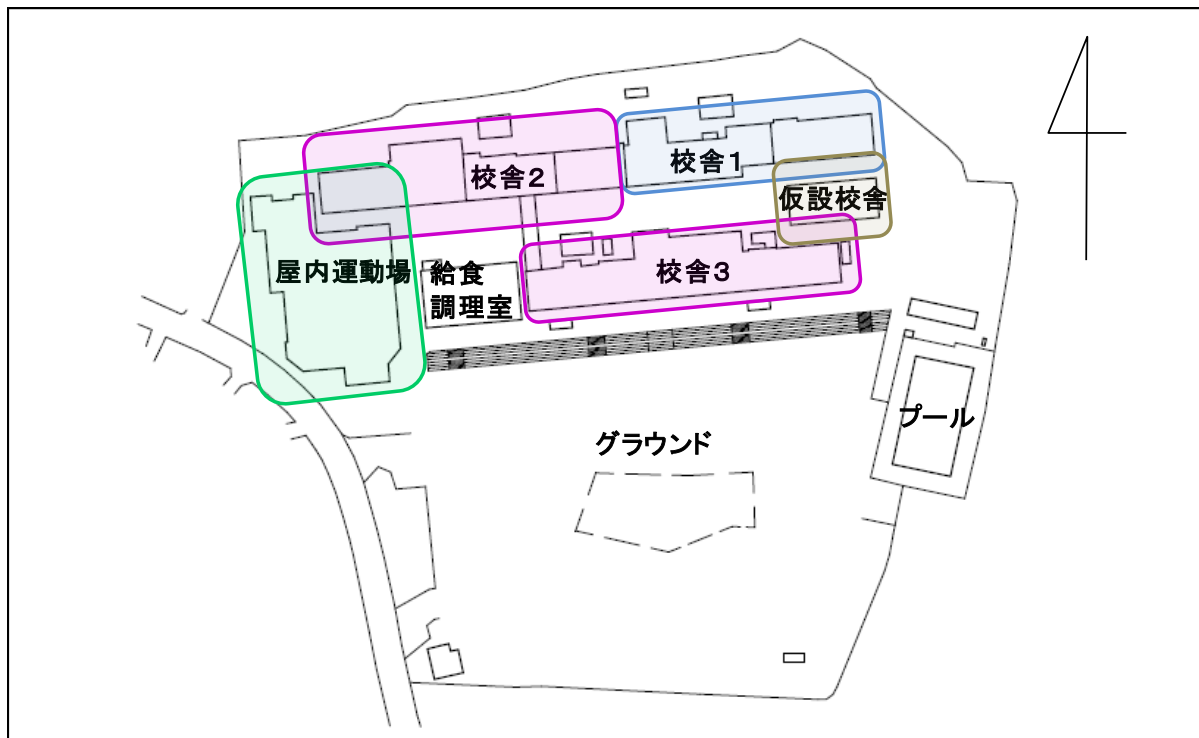
○長寿命化整備方針の分類

分類 2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	20,881㎡（うち490.71㎡は民有地を借用し使用）	
地区	明治地区	
地域	第二種住居地域	
立地及び周辺情報	西側は県道，南側は市道を挟み国道に接し，他は低層住宅地。接道は三方で県道を除き道幅狭い。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。開放用施設を併設。
	プール	昭和57年3月建設。校地東側に配置，アルミ造。
	給食調理室	昭和54年3月建設。
	仮設校舎	平成24年3月に4教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎 1	・建物の使用年数は50年を経過しており、外壁、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
校舎 2	・建物の使用年数は40年程度で、外壁、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
校舎 3	・建物の使用年数は40年程度で、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
屋内運動場	・鉄骨造。建物の使用年数は30年程度。

○児童数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	819人	24	5	適正規模	6,017㎡	1,038㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	933人	30	(2)	大規模	8,849㎡ 〔 2,832㎡〕	1,038㎡ 〔 - 〕

※想定整備面積、下段〔〕内、増減面積

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
843人	30	大規模

特学・・・特別支援学級

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
校舎 1	RC3	昭和43年3月	698	改築	4,963
	RC3	昭和46年2月	1,149		
	RC3	昭和56年3月	17		
校舎 2	RC3	昭和51年2月	499	長寿命化改修	2,357
	RC3	昭和52年2月	638		
	RC3	昭和53年3月	1,220		
校舎 3	RC2	昭和54年3月	1,529	長寿命化改修	1,529
屋内運動場	S1	昭和63年2月	1,038	中規模改修	1,038

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・供用開始予定 : 令和14年12月
- ・総事業費見込み : 4,769,000千円

⑧長後小学校再整備

事業優先度 8

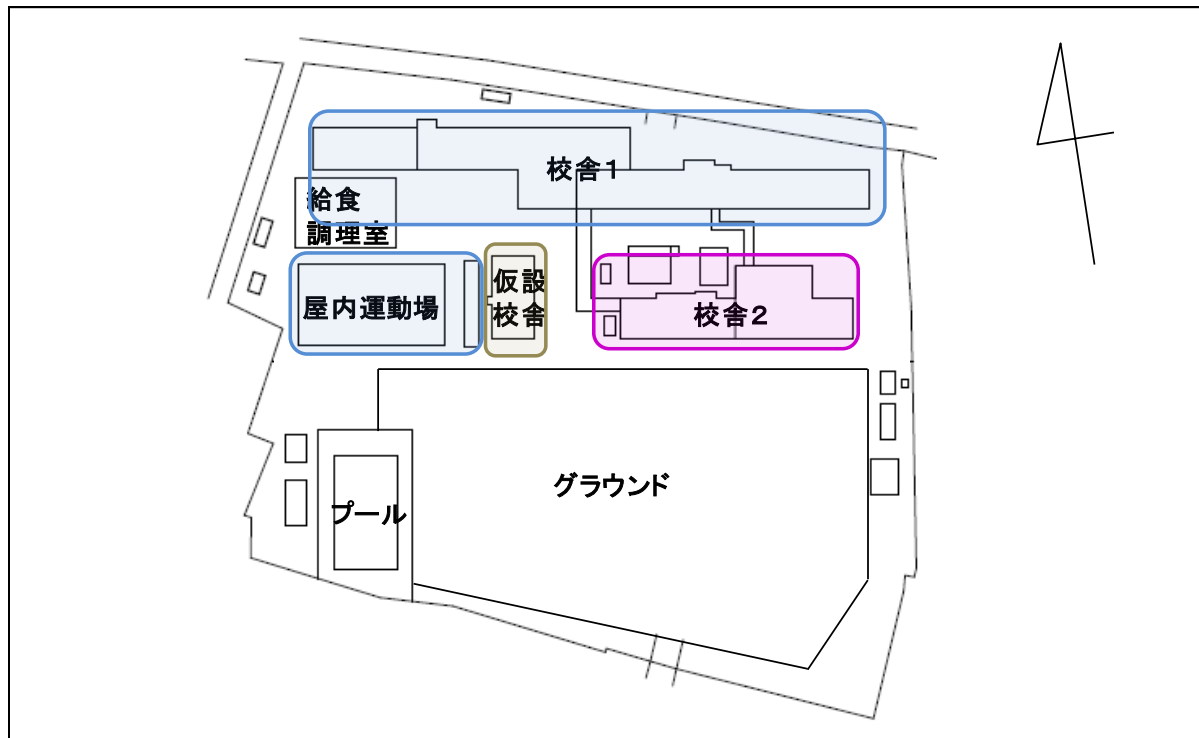
○長寿命化整備方針の分類

分類 2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	15,410㎡	
地区	長後地区	
地域	第1種中高層住居専用地域	
立地及び周辺情報	接道は北側の高倉下長後線（計画道路）のみ。低層住宅地に立地。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和48年1月建設。校地西側に配置，鋼板造。
	給食調理室	平成元年3月建設。
	仮設校舎	平成25年3月，2教室分設置。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
校舎 1	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、床等にクラックが確認されている。
校舎 2	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部、設備関係に劣化が見られる。 ・平成26年度に外壁改修工事を実施。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
屋内運動場	・建物の使用年数は50年を経過しており、内部に劣化が見られる。 ・令和元年度に外壁等改修工事を実施。 ・耐力度調査(H28)では、柱に層状の錆、壁や床にクラックが確認されている。

○児童数の推移，想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	851人	24	2	適正規模	5,979㎡	646㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	818人	27	(2)	大規模	8,597㎡ 〔 2,618㎡〕	1,204㎡ 〔 558㎡〕

※想定整備面積，下段〔 〕内，増減面積

参考：令和37年度想定	児童数	学級数	学校規模	特学・・・特別支援学級
	726人	24	適正規模	

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
校舎 1	RC3	昭和42年3月	656	改築	6,703
	RC3	昭和43年3月	1,320		
	RC4	昭和43年3月	1,809		
校舎 2	RC3	昭和50年3月	1,115	長寿命化改修	1,894
	RC3	昭和54年3月	779		
屋内運動場	RC2	昭和43年11月	646	改築	1,204

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・供用開始予定 : 令和15年12月
- ・総事業費見込み : 4,469,000千円

◎鵜沼小学校再整備

事業優先度 9

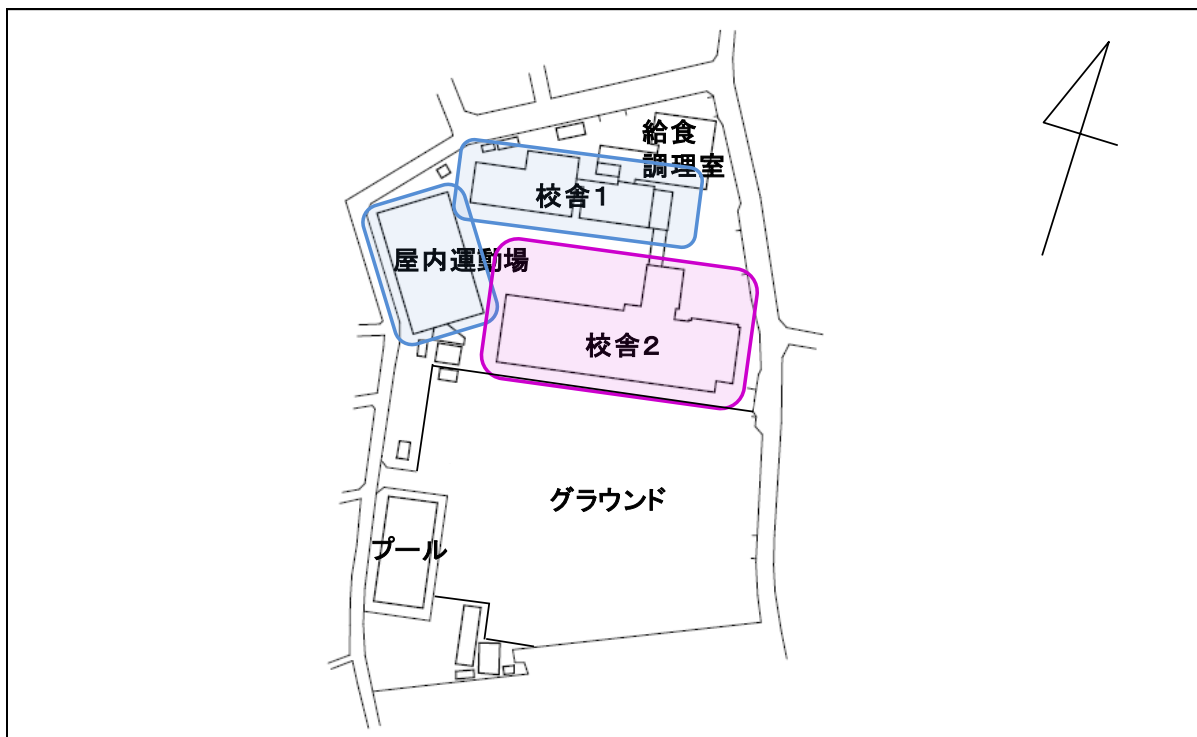
○長寿命化整備方針の分類

分類2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	12,212㎡	
地区	鵜沼地区	
地域	第1種低層住居専用地域	
立地及び周辺情報	低層住宅地に立地。接道は南側を除き三方あるが道幅は狭い。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和48年8月建設。校地西側に配置，鋼板造。
	給食調理室	昭和56年3月建設。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
屋内運動場	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の使用年数は50年を経過しており、内部に劣化が見られる。 ・平成23年度に外壁等改修工事を実施。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
校舎1	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の使用年数は50年を経過しており、全体的に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、床等にクラックが確認されている。
校舎2	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の使用年数は40年未満で、外壁や屋根に劣化が見られる。

○児童数の推移，想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	910人	30	-	大規模	5,702㎡	621㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎等	屋内運動場
	951人	30	(2)	大規模	8,849㎡ 〔 3,147㎡〕	1,204㎡ 〔 583㎡〕

※想定整備面積，下段〔〕内，増減面積

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
732人	24	適正規模

特学・・・特別支援学級

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
屋内運動場	RC2	昭和41年3月	621	改築	1,204
校舎1	RC3	昭和43年3月	971	改築	5,040
	RC4	昭和47年3月	692		
校舎2	RC4	昭和59年3月	3,809	長寿命化改修	3,809

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・ 供用開始予定 : 令和16年12月
- ・ 総事業費見込み : 4,037,000千円

⑩大道小学校再整備

事業優先度 10

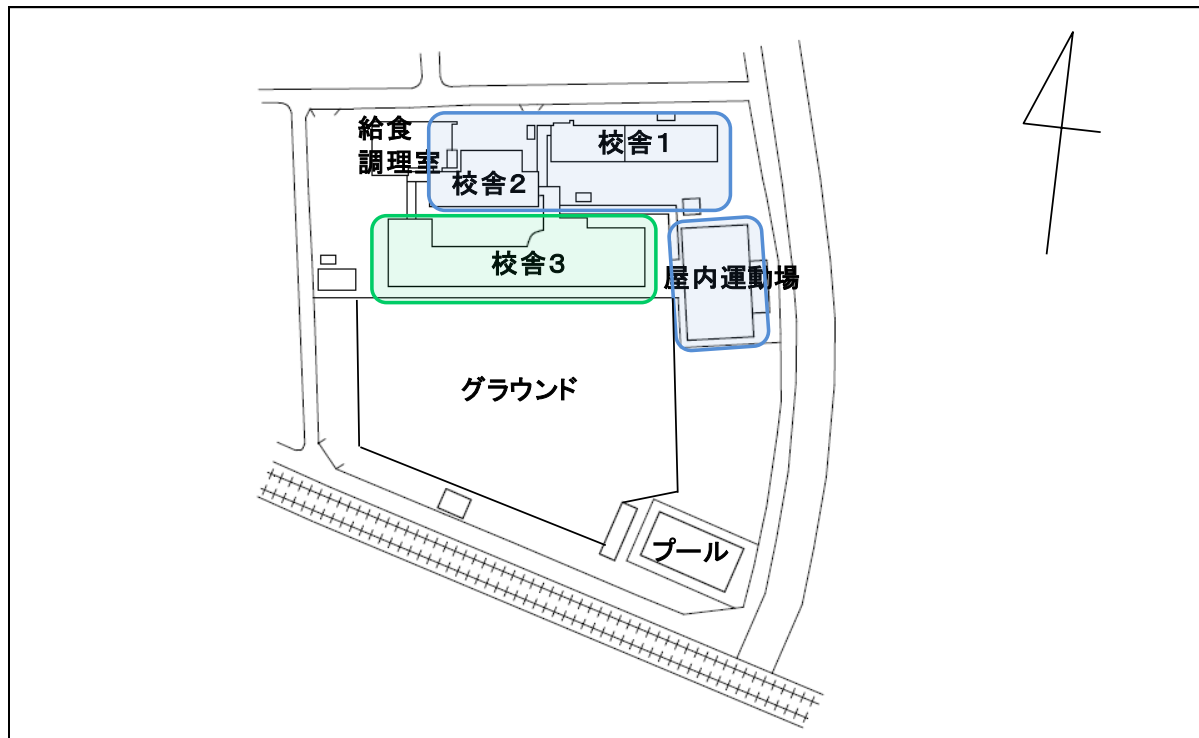
○長寿命化整備方針の分類

分類2	使用年数50年以上経過又は長寿命化に適さない建物を有する学校
長寿命化の可否判別	改築を含めた整備が望ましい学校

○既存施設の状況

校地面積	16,549㎡	
地区	藤沢地区	
地域	第1種住居地域	
立地及び周辺情報	西側は市役所に隣接し、北側には低層住宅が配置。四方接道しているが道幅は北面を除き狭い。南面は道路を挟みJR東海道線が通る。敷地内に児童クラブ建物が設置。	
施設 特 記 事 項	校舎	次ページに記載。
	屋内運動場	次ページに記載。
	プール	昭和48年7月建設。校地南側に配置、鋼板造。
	給食調理室	昭和58年3月建設。

【既存配置図】



○建物情報

建物名	現状と課題
屋内運動場	・建物の使用年数は50年を経過しており、外壁、屋根、内部に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋に局所的な欠損さび、壁等にクラックが確認されている。
校舎1	・建物の使用年数は50年を経過しており、全体的に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
校舎2	・建物の使用年数は50年程度で、全体的に劣化が見られる。 ・耐力度調査(H28)では、鉄筋の部分的な点食、壁等にクラックが確認されている。
校舎3	・建物の使用年数は30年程度。

○児童数の推移、想定整備面積

令和3年 4月5日現在	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	面積	
					校舎等	屋内運動場
	681人	20	3	適正規模	5,610㎡	632㎡

令和8年度 推計	児童数（特学を含む）	普通 学級数	特学	学校規模	想定整備面積	
					校舎	屋内運動場
	744人	23	(2)	適正規模	6,730㎡ 〔 1,120㎡〕	1,054㎡ 〔 422㎡〕

※想定整備面積、下段〔〕内、増減面積

参考：令和37年度想定

児童数	学級数	学校規模
711人	24	適正規模

特学・・・特別支援学級

○整備手法

建物名	構造階	建築年月	既存面積（㎡）	整備手法（案）	整備後面積（㎡）
屋内運動場	RC2	昭和41年11月	632	改築	1,054
校舎1	RC3	昭和43年1月	710	改築	4,282
	RC3	昭和45年2月	675		
校舎2	RC4	昭和47年3月	1,536		
校舎3	RC3	平成6年12月	2,448	中規模改修	2,448

○事業スケジュール及び想定事業費

- ・供用開始予定 : 令和17年12月
- ・総事業費見込み : 3,980,000千円

カ その他の学校の再整備に向けて

今回の第2期実施計画では、市立学校計55校のうち、基本方針における分類1及び分類2の10校についての整備手法等の検討を行いました。

当面は、建物の劣化状況等を踏まえ、使用年数が50年以上経過し、老朽化の進行により、早期に改築を行う必要のある校舎棟を保有している学校から、順次、再整備事業に着手していくことを想定しています。

基本方針においては、施設の安全性の確保を最優先に、建物の使用年数が40年から50年の間に躯体補強を含めた長寿命化改修を実施し、目標使用年数を80年に延命化することで、将来的な事業費の負担軽減を図ることとしており、これらの学校の長寿命化改修を同時並行で実施していくことが必要となります。

しかしながら、現時点の財政状況では、改築を含めた再整備事業と長寿命化改修を主とした再整備事業を、同時並行で実施していくことは、かなり難しい状況です。

長寿命化改修の計画的な実施にあたっては、PFI事業等、民間資金の活用も含めた様々な手法を検討する必要があるが、また、躯体補強を含めた工事となる長寿命化改修は、コスト削減や工期短縮の観点から踏まえた革新的な技術の導入が求められます。

今後は、こうした事業実現の可能性を模索することを目的として、専門業者による調査委託業務を実施するなど、継続的な検討を行っていく必要があります。

(2) 既存施設の適正な管理、運営にかかる整備計画

基本方針では、学校施設の適正な管理・運営を行うため、外壁改修やトイレ改修等の各種整備事業について、一定のサイクルで更新・改修を実施することが望ましいとする整備水準を定めました。

この整備水準に基づいて計画的に更新・改修を実施することで、「事後保全型」から「予防保全型」の管理に転換していくことを目指しますが、現状の施設に、整備水準の更新・改修のサイクルをあてはめていくと、毎年、多額の事業費を要し、事実上、計画の実施が困難となります。

第2期実施計画では、過去の改修工事の実施期間や施設の状況を考慮しつつ、適正な管理、運営に支障のない範囲で、可能な限り更新・改修のサイクルに近づけるための計画としています。

また、事業の実施に向け、国庫補助金等の特定財源を確保し、学校施設の安全性を最優先に、中規模改修や長寿命化改修の実施時期を考慮しながら、継続的に実施していくこととします。

事業区分		実施年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設の安全対策・維持保全整備							
	外壁・屋上防水改修（校舎）		2校	2校	2校	2校	2校
	外壁・屋上防水改修（屋内運動場）		10校	4校	3校	3校	4校
	給水設備改修		1校	2校	2校	2校	1校
	プール缶体塗装		0校	6校	5校	5校	4校
	プール設備更新		0校	4校	4校	3校	3校
	放送設備更新		3校	3校	4校	4校	5校
教育・学校生活環境整備							
	トイレ改修		4校	5校	3校	3校	3校
	空調設備更新等		5校	15校	10校	4校	4校
	グラウンド改修・体育倉庫改修		1校	2校	2校	1校	2校
新たな教育ニーズに対応する諸整備							
	特別支援学級の整備		1校	2校	2校	1校	1校
	バリアフリー化		適宜	適宜	適宜	適宜	適宜
	照明のLED化		5校	5校	5校	5校	5校
財源内訳 （百万円）	事業費想定		2,142	3,174	2,100	1,346	1,482
	国庫補助金		574	1,101	382	291	321
	地方債		1,489	1,484	1,152	626	732
	一般財源		79	589	566	429	429

表 2 - 2 直近 5 年間の整備計画

(3) 学校の適正規模・適正配置の検討

全国的に児童生徒数が減少傾向にある中、本市においては、大幅な減少は当面見込まれず、近年は地域における人口差が生じ始め、児童生徒数の適正な学校がある一方で、一部の学校では人口集中による過大規模化、人口減少による小規模化等のばらつきが生じてきているところです。

過大規模校の解消に向けた取組として、隣接する学校との通学区域を変更することが効果的ではありますが、隣接する学校においても、児童生徒数の減少が見込まれないことから、通学区域の変更は困難な状況となっております。また、通学区域の変更は、学校を中心とする社会活動や地域の事業に大きな影響をもたらすことから、自治会・町内会等地域住民の理解が不可欠です。

一方で、令和3年度から段階的に1学級35人の少人数学級が義務化され、令和7年度には市立小学校の全ての学年が35人学級となることに伴い、本市では、一部の学校において、教室不足が生じることが想定されることから、その解消が課題となります。

このような課題の解決に向けて、今年度から学識経験者や地域住民の代表、学校関係者等で構成する検討組織「藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会」を立ち上げ、今後の児童生徒数の推移を見ながら、学校の統合を含め、通学区域の再編・見直し等について慎重に見極め、学校の適正規模・適正配置を図るための具体的な検討を進めていきます。

第2期実施計画における事業の実施にあたっては、「藤沢市立学校適正規模・適正配置検討委員会」での検討内容との整合性を図りながら進めていきます。



藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画

発行年月 2021年（令和3年）7月
発行 藤沢市教育委員会
編集 教育部 学校施設課
〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1番地の1
電話 0466-25-1111（内線 5121）
FAX0466-50-8424
E-mail fj-gakko-s@city.fujisawa.lg.jp